

令和7年度 第1回 佐藤小学校運営協議会 会議録 (要点記録)

1. 開催日時 令和7年4月22日(火) 14時15分から16時00分まで
2. 開催場所 浜松市立佐藤小学校 会議室
3. 出席委員 尾上 弘、酒井 里江子、伊藤 安男、湯山 紀美代、安富 小織
4. 欠席委員 一之瀬 正行、鈴木 涼介
5. オブザーバー 神谷 匠 (東部協働センター コミュニティ担当)
6. 学 校 松下 欣美 (校長)、高木 康泰 (教頭)、大石 葉子 (CS担当)、
泉澤 孝典 (生徒指導主任)、坂倉 祥子 (CSディレクター)
7. 教育委員会 なし
8. 傍聴者 なし
9. 会議録作成者 CSディレクター 坂倉 祥子

10. 議長の選出

司会から会長の選出について委員に意見を求めたところ、伊藤委員から会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11. 協議事項

- (1) 学校運営の基本方針について
- (2) 浜松市立佐藤小学校いじめ防止基本方針について
- (3) 「かがやく子」を育てるために学校・子供・先生・地域の一体感を深めるには
- (4) 夢育やらまいか事業 (CS加算分) に対する意見書について

12. 会議記録

司会の教頭から、委員総数7人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校運営の基本方針について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

伊藤委員 地域と一体となった活動に繋げていくためには、関心のある地域住民や保護者に先生の言葉を直に届け、一同に理解する為の取り組みや場が必要だと感じる。

酒井委員 さくら連絡網での発信は、興味がある者として非常に嬉しく思う。今後も継続してほしい。

安富委員 「来てもらうばかり」ではCSは地域に浸透しない。学校側が子ども達を地域に送り出す形で貢献していくことも、基本方針にあった関わりを意識していく中で、今後の活動として必要になっていくのではないかと。

尾上委員 PTA総会の紙面開催により、保護者に直接言葉を届ける場がなく、現状難しいことも多い。様々なことがリモートで可能になった時代だからこそ、今の子供たちには人との関わりを持つ力をつけていってほしい。

熟議の結果、今回出た意見を課題化した上で今後も熟議を続けていくとし、これを承認した。

(2) 浜松市立佐藤小学校いじめ防止対策方針について

議長の指示により、校長と生徒指導主任より、別紙資料に基づきいじめ防止対策方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

伊藤委員 各学校で「人権教室」を行っており、いじめ等の人権問題について考え、学ぶ活動を提供している。声をかけてくれれば対応可能なため、本校でも取り入れたらどうか。

尾上委員 被害者側も加害者側も、対話をして言いたい事がきちんと言える力や、相手の言葉を聞いてあげられる力が大切だと感じる。失敗を良い方向に収めていく力を身に付けてほしい。

(3) 「かがやく子」を育てるために学校・子供・先生・地域の一体感を深めるには

安富委員 今後は地域と学校が互いに必要性を高めていかなければならない。学校側が求めるばかりではなく、地域に貢献していく事で繋がりを作っていったら良い。佐藤小学校は、学区外の生徒の割合が多いことも特徴の一つ。また一体感を深めるにあたり、個を大切にすあまり、集団としての対応の難しさを感じている。

尾上委員 個を大切にしつつ、周囲との関わりを持つ難しさは感じる。地域の大人が手本となる形を考えていきたい。学校を介して、いろいろな立場の人と子供たちが関わり合える機会があると良い。

熟議の結果、地域のニーズを聞くなどまずは現状を整理し、今後の運営協議会にて熟議を続けていく事を確認した。

(4) 夢育やらまいか事業に対する意見書について

議長の指示により教頭から、別紙資料に基づき、夢育やらまいか事業について説明があった。

その他報告事項

次回会議は、令和7年7月23日(水)13時30分から佐藤小学校会議室で開催する旨の報告があった。また今後の学校公開、さとっこ運動会・参観会についての案内と、夏のヘルメットの着用についての説明があった。